

# ごあいさつ



公益財団法人 日本テニス協会

会 長 山 西 健 一 郎

本年も実業団テニスの日本一を決める第34回テニス日本リーグが、盛大に開催されますことは、誠にご同慶に堪えません。

大会開催に際しましては、日頃実業団テニスの活動に暖かいご理解を頂き、その発展にご尽力頂いている各企業の皆様と、ご観戦ご声援を頂いている観客のご支援の賜物と、深い敬意を表すると共に感謝申し上げます。

皆様もご存知の通り、錦織圭選手や大坂なおみ選手の活躍をはじめ、ジュニアでもウインブルドンジュニア男子シングルスで優勝を果たすなど日本の選手が大活躍しております。日本テニス界は、来年に迎える東京オリンピック・パラリンピックにむけて、大きな盛り上がりを見せております。

テニス日本リーグ於いても、四大会出場経験選手や国内トップクラスの選手による日本最高峰の団体戦として激戦が繰り広げられ日本の頂点が決定いたします。出場を果たされました各企業の監督、選手、関係者の皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに選手の皆様には、日頃の練習の成果と団体戦ならではの「チームワーク」を発揮され、悔いのない熱き戦いと、各企業の代表選手として、すべての世代のテニス選手の模範となる「フェアプレー」の精神による感動を期待しております。

最後になりましたが、ご後援を頂いております日本経済新聞社様、並びにご協賛を頂いておりますヨネックス株式会社様をはじめ多くの協賛会社様、また大会開催・運営にご尽力頂いておりますすべての関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

# ごあいさつ



公益財団法人 日本テニス協会  
実業団委員会

委員長 矢澤 猛

国内最高峰の実業団チーム戦でありますテニス日本リーグが、日本テニス協会の数多くのテニス大会の中で、本年度最後のビッグイベントとして今年も盛大に開催出来ることをとても嬉しく思います。

全国各地域での予選を勝ち抜き、10月に広島広域公園テニスコートにて開催しました第33回全国実業団対抗テニストーナメントでの活躍で、男子は上位4チーム、女子は上位2チームに入り、見事この第34回テニス日本リーグへの出場資格を得られた実業団チームの皆さんに、その活躍に敬意を表し、祝福させていただきます。チームの皆さんのみならず会社の方々も大変喜んでいらっしゃると思います。また昨年の優勝チーム、残留チームの皆さん、準備は大丈夫ですね。来年2月に予定されている本年度の決勝トーナメントは、昨年度と同様にオリンピック準備のために横浜国際プールでの開催となっています。その決勝トーナメントに出場するには、ブルボンビーンズドームと横浜国際プールで行われるブロックリーグに勝ち抜いていかなければなりません。女子は例年と同じ12チーム、男子は昨年2チーム増やして好評でありましたので、引き続き18チームで日本1を競う厳しい対戦となります。

来年はご存知のようにオリンピックが開催され、スポーツ界全体が熱気を帯びてきています。テニスのメッカ有明も素晴らしい大会会場に生まれ変わり、錦織選手や大坂なおみ選手の大活躍で、テニス愛好家の皆さんも熱くなってきていると思います。日本の国旗と会社の社旗の違いはありますが、日本リーグ優勝を目指す社旗を背負った皆さんの心意気、情熱に違いは無いと思います。是非日頃の練習成果を思う存分発揮して素晴らしいプレーを披露し、応援の皆さんを熱くしていただきたいと思います。

最後になりましたが、長年に亘ってご後援を賜っております日本経済新聞社様、ご協賛頂いておりますヨネックス株式会社様をはじめ、主管いただきます各地域協会、都県協会の皆さま、並びに関係者の皆さまにお礼を申し上げましてご挨拶とさせていただきます。